

## 作新学院大学 ティーチング・ポートフォリオ

所属	氏名	作成日
人間文化学部発達教育学科	安齊 薫	2024年5月1日

### 【責務】(何をおこなっているのか/担当授業科目その他)

#### 【前期】

英語 A1b | 学部2学科1クラス  
英語 A1h | 学部2学科1クラス  
英語 A1j | 学部2学科1クラス  
英語 A3a | 学部2学科1クラス  
英語 A3j | 学部2学科1クラス  
英語 A3l | 学部2学科1クラス  
小学校外国語(英語) | 学部1学科1クラス

#### 【後期】

英語 A2b | 学部2学科1クラス  
英語 A2h | 学部2学科1クラス  
英語 A2j | 学部2学科1クラス  
英語 A4a | 学部2学科1クラス  
英語 A4j | 学部2学科1クラス  
英語 A4l | 学部2学科1クラス

\*その他、他大学(立正大学 文学部 英語英米文学コース)で以下の科目を担当。

1期 Advanced English Comprehension1・Brush-up Writing1C

2期 Advanced English Comprehension2・Brush-up Writing2C

**【理念】(どのような考えに基づいて行っているか)**

(1)グローバル社会の現在、失敗を恐れず自信を持って自己表現ができる自主性、主体性を軸とした人間形成を目指す。

(2)外国語の楽しさを個人にとどめることなく、次世代へつなぐことができるよう確かな実力を身に付け、「学ぶ楽しさ」を体感できるよう助言、指導している。

**【方法】(その考えをどうやって実現しているか)**

英語 A1・英語 A2 は、これまで学習してきた基礎を確認しながら文法、リスニング、ライティングをいう順で演習を織り交ぜながら展開している。1 コマのうち1人1回は発言をするよう教員がコミュニケーションを取りながら進める。(また、季節に合わせ文化・風習の英文プリント教材も使用。)

英語 A3・英語 A4 は、応用的な教材を用いている。学生にも身近な英語の Hit Songs を何曲か聴き、同時に歌詞の穴埋め(単語補充)をしながらリスニング力の強化を図っている。その後、曲の内容や時代背景、歌手のバックグラウンドに関する英語長文を読んで英語圏の文化への理解を深める。英語圏の歴史や慣習といったトピックに触れることで新たな知識を得て、さらにそこから多角的にものが見られるよう期待している。(上級レベルクラスは TOEIC 教材+プリント教材『日本文化を英語で表現!』の2つを用い、英語への興味と実力の向上を目指している。)

小学校外国語では、教員を目指す学生が履修するため「英語の歴史」からはじまり、3~6年生の授業で使える英語表現(small talk)など、大きくかつ細かく指導している。(また小学校外国語でよく使われる単語・表現に特化したテキストを授業後半に使用し、学生が自信を持って教壇に立てるようサポートしている。)

以上、どの科目においても授業の終わり 15 分には、提出用紙にその日のテーマ(ex. What did you do last weekend?)などに対し 3~5 文程度自由に英作文を書く時間を与え、自己表現をアウトプットする機会を設けている。

**【成果】(その方法を行った結果、どうなったか、どうだったか。自身の感想・具体的な成果物・学生からのコメントなど)**

どの大学、どの科目においても授業中に学生は1人1回以上の発言を求められるので少し緊張するかもしれない。しかし間違いを恐れず発話することで意欲が増している様子がうかがえる。教員も全員と丁寧にかつ積極的にコミュニケーションをとることで1人ひとりの様子がよく分かる。学生からはアンケートの自由記述欄に「授業に参加しているという感覚が確かにある。」「毎回書く英作が楽しい。」と学生のやる気につながっていると思われる。

**【目標】(今後どうするか)**

「英語はコミュニケーションツール(道具)」であることを再確認し、今そして将来必要な場で用いながら人間性を豊かにし、多角的にもものを見ることができるようになってほしい。そのために学生はもちろん教員も「大学における学びは楽しい」と感じられるよう「さわやかな授業」を心がけたい。